



# 来待小だより

1月号

令和8年1月20日(火)

松江市立来待小学校

校長 村上 幸人



来待小ホームページ



## 新年を迎え、3学期が始まりました



令和8年が始まりました。学校においては3学期の開始です。

この冬は例年と比べると暖かく、あまり雪が積もらず雪遊びができなくて子どもたちにとっては残念ではないかと思えます。インフルエンザ等の流行もなく、明るく元気な声が校舎内に響き渡っています。

3学期は短く、もうすぐ2月。そして3月には卒業式、修了式という今年度のゴールを迎えます。午(うま)年の今年、子どもたちが力強く駆け抜けて、悔いのない3学期を過ごしてゴールできるよう、教職員一同、力を合わせてがんばります。どうぞよろしくお願いします。



1月8日の始業式の様子



## 「おもちゃランド」で遊ぼう！(2年生)



12月24日(水)に2年生が生活科で取り組んできた「おもちゃランド」がオープンし、1年生が遊びに行きました。

自分自身でアイデアを出し、イメージを持って手作りし、それぞれのおもちゃを作り上げました。さらに、それを使って遊ぶコーナーのセッティングのために看板や掲示物、使い方の説明書も作って、誰もが楽しめるようにやさしい配慮もされていました。

どんなおもちゃを考え出したかというと…

- ・パタパタカーレース
  - ・空気ロケット、わりばしロケット
  - ・じしゃくさかなつり
  - ・ゴムでっぼう
  - ・コロコロボーリング
  - ・ポンポンキャップなげ
- です。



このネーミングでどんなおもちゃかお分かりいただけるでしょうか？

企画力、創作力、コミュニケーション力を発揮し、活動を楽しんでいる姿を見て、改めて子どもたちの力、子どもの世界のすばらしさを感じることができました。



おもちゃランドの各コーナー

## もちつき わっしょい！（5年生）

1月16日（金）に、5年生がこれまで学校田で育ててきたもち米で、来待地区の有志の方と一緒にもちつきをしました。

杵や臼、もち米の蒸した香りが広がる空間で、みんなで順番におもちをつきました。杵をしっかりと持ち、臼の中心のおもちをねらって振り下ろします。真ん中につくことが案外難しく、中には臼をたたいてしまう人もいました。だんだんとコツをつかみ、ペタンという手ごたえを感じるものが多くなり、どんどんおもちができていきました。

その後、つきあがったおもちを台に乗せ、打ち粉をつけて丸めていきました。柔らかいけれども弾力のある、あたたかいお餅がきれいな丸に仕上がっていきました。

出来立てのおもちを食べてみると、ほっぺがおちそうでした。つきたてのおもちを食べる機会は、なかなか最近ないかもしれません。

「みんなで協力してできた」「前やったときより上手にできた」などの感想が出ました。今回、ブラジルから体験入学で来ている人もおり、「日本について調べた時に出ていたおもちを、実際に作って食べることができてうれしかった。すごいと思った。もう1回したい。木（の部分）を打ったけれど上手にできてよかった」とポルトガル語で述べていました。

来待の大地、田んぼで育った豊かな食に、そしてみんなで力を合わせて楽しくできたことに感謝です！



順番に杵でもちつき



こねこね丸めて仕上げ

## 心理教育プログラム（全学年）

心理に関する専門家であるスクールカウンセラーが1名、月に1回程度来ています。児童へのカウンセリング（希望者）やアセスメント、保護者への助言・援助、教職員へのコンサルテーションや研修を担当しています。さらに、学校全体を支援するという視点から、コミュニケーションの取り方やストレスマネジメントに関する授業を担当と一緒にしています。

今年度は、例えば、廊下に置いてある絵を一部の児童だけが見に行き言葉だけで他の班員に伝えて完成させるゲームを行ったり、新聞タワー作りをチームで協力して行ったり、言葉の指示に従って絵を描いた後に作品を比べて見たり、カラフルな色の絵本を読んだ後に自分で様々な色を使って思いのままに描いてみたりなどを行いました。その際に「命令しない」「否定しない」などに留意しました。

誰もが気持ちよく集団生活できるためのヒントを感じることができ、今後の生活に生きてくると考えています。



伝言だけで絵を再現（6年生）



一色しかない世界を絵本で（2年生）